

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 福島県須賀川市立白方小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒962-0301
福島県須賀川市今泉字梅田181

E-mail shirakata-e@fcs.ed.jp

Website https://sukagawa.fcs.ed.jp/白方小学校

幼児児童生徒数 男子 53名 女子 51名 合計 104名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「地域に根ざし、持続可能な未来を切り拓く児童の育成～E S Dの日常的な実践を通して～」をテーマとして、E S Dの日常的な実践の中で、「多様な観点から考え、見通しを持ってよりよい解決策を考える力」「気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度」「さまざまな人や社会、自然などとのつながりを尊重する態度」「よりよい未来をめざし、その実現に向けて主体的・計画的に取り組む態度」の育成を目指した。

① 日常の教育活動中での実践

本校では、「各教科等の目標を達成するための日常の学習活動を通して、E S Dで育む力を育成する」ため、次のような方法により実践している。

- i) 単元本来の目標と「E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」を合わせて「E S Dの視点に立った新たな単元の目標」を設定し、それを実現するための学習を意図的・計画的・日常的に行うこと
- ii) 「E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」(国立教育政策研究所)を再構成するとともに、「生きる力」との関連を明示し、自覚的に実践すること
- iii) 「E S Dカレンダー」を学級ごとに作成し、教科・教材のつながりを意識して学習の構想を練ること

② 地域に根ざした題材から課題を見付け、調べ、表現する学習の展開

1・2年生の「生活科」においては、自分たちの住む地域を見て歩き、その様子や働く人について多くのことに気付くことをねらいに学習を行ってきた。これをもとに、今年の

「総合的な学習の時間」では、3年生が「大豆」を、4年生が「ごみ問題」を、5年生が「米」を、6年生が「みそ」を取り上げた。児童はこれらについて調べるだけではなく、その結果分かったことや自分の考えを、次のような様々な方法で表現・発信した。

3年生：学校行事である「白方フェスタ」で発表

4年生：回覧板を用いて地域の方々に見ていただきアンケートを実施

5年生：ビデオレターによりネパールの小学生に発信し交流

6年生：保護者や全校児童を招いて「みそフェス」というイベントを開催

③ 授業以外の場でのESDの推進

i) 本校は福島県が温暖化防止のために節電や節水を呼びかけている「福島議定書」に参加しており、児童会委員会の一つである「環境委員会」が毎月の電気と水道の使用量をグラフ化することにより成果を明示し、全校児童に節電・節水を呼びかけている。

ii) 児童会委員会の一つである「運営委員会」がエコキャップとプルタブの回収、ユネスコ「寺子屋募金」への協力を全校児童と各家庭に呼びかけている。エコキャップについては、地域の方々の協力を広くいただくことができている。

iii) 本校では、合奏部・運動部に加えて、特設クラブの一つとして「白方サイエンスクラブ」を設置し、オニヤンマ研究家を招いての校内ビオトープ復活プロジェクトや、科学に興味を持ってもらい科学的な視点でESDを学ぶための朝の放送「おもしろ理科だよりの放送を行っている。



②の写真(5年生ビデオレター発表会)



②の写真(5年生ビデオレター発表会)



②の写真(6年生みそフェス)



②の写真(6年生みそフェス)



③の写真(白方サイエンスクラブ「ビオトープ復活プロジェクト」)



③の写真(エコキャップ回収)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(放課後や家庭で)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 学校における持続可能な発展のための教育 (E S D) に関する研究 [最終報告書] (国立教育政策研究所)<input type="checkbox"/> E S D (持続可能な開発のための教育) 推進の手引き (初版) (日本ユネスコ国内委員会)<input type="checkbox"/> E S D 環境教育モデルプログラムガイドブック①~③ (環境省)<input type="checkbox"/> 持続可能な社会づくりと環境教育 E S D にもとづく環境教育の理論と実践事例 (全国小中学校環境教育研究会)<input type="checkbox"/> 学校発・E S Dの学び (手島利夫)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

- i) 本校「学校経営グランドデザイン」に、本校の教育活動を支えるものとして「ユネスコスクールとしての特色ある教育活動」を位置付けている。さらに、その具体的な内容として、「ユネスコスクール等のネットワークを生かした他校や専門機関との交流と講師の招聘」「教育活動をESDの視点から見直すことによる教科横断的な指導の実現」「持続可能な社会づくりの観点から課題を持ち、調べ、発表する学習スタイル」「研究成果の積極的な発信と交流」の4点を掲げ、その推進を約束している。
- 2) 現職教育のテーマに「地域に根ざし、持続可能な未来を切り拓く児童の育成～ESDの日常的な実践を通して～」を掲げ、「生きる力」との関連も考慮した「白方小学校版 ESDの視点に立った学習指導で育む能力・態度」の設定、持続可能な社会づくりのための学習内容や単元の開発・実践、「課題を持ち、調べ、表現する」一連の学習を協働的に推進するための工夫、等について研究を進めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- i) 本校「学校経営グランドデザイン」に、本校の教育活動を支えるものとして「ユネスコスクールとしての特色ある教育活動」を位置付けている。
- ii) 校務分掌組織に「現職教育・ESD推進委員会」を位置付け、校長・教頭・研修主任・教務主任が担うことと定めている。
- iii) 須賀川市の「特色ある学校づくりサポート事業」にESDの推進に係る交付金を毎年度申請し、交付を受けている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

＜評価の方法・具体的内容＞

「学校評価」において、保護者からのアンケート調査やそれをもとにした「自己評価」、学校関係者評価（学校評議員による）により評価を行っている。また、定期的に来校する法政大学の坂本旬教授に、本校のユネスコスクールとしての活動についてその都度、評価・指導をいただいている。

＜成果と課題＞

ユネスコスクールやESDという言葉でそのまま評価しようとする、その範囲が広く、曖昧な評価になってしまう。評価項目をより具体的に、重点的な内容にしぼって評価する必要がある。

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

<活動成果の発信方法・内容>

- i) 平成29年11月17日(金)「第3回ESD研究発表会」(本校主催)の開催
- ii) 平成30年2月25日(日)「福島ESDコンソーシアム 第3回交流会」への参加(本校会場)
- iii) 須賀川市教職員研究物展への出品
- iv) 学校ホームページでの「学校だより」や研究会授業案、ESD関係資料の公開

<効果>

- ESDに関する理解が徐々に広がってきた。
- 学校関係にとどまらず、全国のESD推進に関わるステークホルダーの方々とのつながりができ、新たな視点で自校の実践を振り返ることができた。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

- i) 福島ESDコンソーシアムに参加し、連携している。中でも、法政大学 坂本旬教授には定期的に来校いただき、指導をいただいている。
- ii) 東洋学園大学坂本ひとみ教授がゼミの一環として来校し、国際理解に関する授業を行っている。
- iii) 福島大学三浦浩喜教授のゼミ生(院生)が定期的に来校し、本校のESD実践を対象に研究を行っている。
- iv) 全国小中学校環境教育研究会から研究会の講師の派遣を受けている。
- v) 須賀川地方ユネスコ協会との連携を進めている。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

- i) ネパールのチャンディカデビスクールとのビデオレター交流
 - ii) 福島県只見町立朝日小学校とのビデオレター交流
 - iii) 福島県いわき市立四倉小学校との研究会での交流
- ユネスコスクールどうしの交流やネットワークの形成は、思うように進んでいないのが現状である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

- i) 様々な体験や人々との交流を通して、視野が広がり、自分のことばかりでなく他人のことを考えて行動できるようになった。また、信念を持って多様な仕事をしている地域の方々・専門機関の方々との交流は、児童のキャリア形成にも有意義であった。
- ii) 教員自身が、教育活動のあらゆる分野でE S Dの視点を意識した教材研究と指導を行うようになった。
- iii) E S Dの推進に向けて、教科横断的な指導計画の立案や問題解決的な学習への意識が高まるとともに、「課題を見つけ、調べ、発信（発表）する」という一連の学習方法の価値を再認識できた。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

- i) 年間を通じて「E S Dの日常的な実践」を意図的・計画的に推進するための実践研究を行う。
- ii) ビデオレターによる交流を継続するとともに、交流にとどまらず、そこから課題を見だし、それを解決するための行動を起こすまでを視野に入れた学習を実現する（高学年）。
- iii) 福島E S Dコンソーシアム等の外部専門機関やステークホルダーとの連携を継続する。
- iv) S D G s との関連を意識した実践を行うとともに、児童のS D G s への理解を深める取り組みを行う。